



2011 SEP No. 79

(事務局) (財)いも類振興会内  
〒107-0052  
東京都港区赤坂 6-10-41 ヴィップ赤坂 303 号室  
TEL 03-3588-1040 FAX 03-3588-1225  
<http://www.jrt.gr.jp>

目次	頁
「さつまいも文庫」の紹介	1
国際焼き芋交流フォーラムの準備状況について	3

## 「さつまいも文庫」の紹介

元大阪府立大学大学院教授 樽本 勲

4年前の2007年から準備をし、2008年6月から本格的な収集を開始したサツマイモ関係資料収集保存委員会（委員長：坂井健吉）は、約1万点の資料を収集し、またこれを約6,500点に整理し、保存番号添付とデータベース化を行い、2010年2月にその活動をほぼ終了しました。このサツマイモ関係資料は、寄託頂いた方々の了解の下に2010年3月に「さつまいも文庫」と命名し、また農研機構・中央農業研究センター（当時の所長・丸山清明）に寄贈しています。その後、2010年8月に中央農業研究センターのホームページに「さつまいも文庫」のタブ（<http://narc.naro.affrc.go.jp/sweetpotato/index-spl.html>）が新設され、在庫情報がインターネットにより検索可能となっています。このたびは、文庫完成までの起案、収集、整理、番号添付とデータベース化を事務局として世話をさせていただいた者として、更なる利用の促進を図るために「さつまいも文庫」の内容等について紹介します。

### 1. 収集について

21世紀に入り、国や都道府県等のサツマイモ研究体制の削減や弱体化の進行、元サツマイモ研究者の高齢化等があり、サツマイモに関する貴重な蔵書、文献、資料などの消失が懸念された。このことから、サツマイモ関係資料収集保存委員会を立ち上げ、収集保存に着手しました。

原則として不要になったものを無償で寄贈いただくことから、現在活動中の研究機関や研究者は避けて、元サツマイモ研究者とその御遺族等を中心に50箇所提供依頼を行いました。その結果、24の協力者等から約1万点の書籍・資料が送付され、それを整理したのが表1に示すものです。ご高齢にもかかわらず自宅などで整理され、包装された方々やそのご遺族など協力者に改めて感謝の意を表します。

### 2. 所蔵資料の概要

表1の寄贈リストにありますように、個人寄贈は15件（うち本人から7件、遺族から8件）、機関・団体寄贈は9件でした。約1万点の収集のうち、試験成績の原簿（野帳）の返還、および別刷、成績要旨、レーフレットの合冊などの結果、2010年4月時点で「さつまいも文庫」

として6,540点を収録しています。

また、収録資料の主なものは、①サツマイモの伝来から普及に至る多くの文化史的資料(24-1:甘藷考(青木昆陽)など)、②明治以降の台湾、朝鮮、満州など旧日本領におけるサツマイモ遺伝資源関係などの希少な資料(16-63:台湾甘藷の特性(台中農事試)など)、③大正7年(1918)以降のサツマイモ育種に関する年度成績などを全網羅(15(旧九州農試)、16(旧農研センター)など)、④甘藷品種辞典類(4-22:甘藷品種図説(農林省農政局)など)、⑤サツマイモの貯蔵加工利用に関する資料(6-46:甘藷と澱粉百年の歩み(鈴木繁男ら)など)、⑥第二次世界大戦前後のサツマイモを含む食料統制などの文化・歴史的資料(16-85:藪類配給統制の葉(二本甘藷馬鈴薯株式会社)など)、⑦サツマイモの海外関係資料(3-1:The sweet potato and ocean(D.E.Yen)など)、⑧サツマイモ研究報告と別刷集(8(樽本勲)、10(坂本敏)など)、⑨海外のいも類関係資料(10-1~17など)、⑩ジャガイモなどいも類全般(5-9~15など)です。

### 3. 所蔵番号と検索方法

ホームページでは一点毎に記されている収録番号(例:1-2)、シリーズ名、書名/論題、著者名/責任表示、出版名/学会名、出版年/号頁、注記から検索が可能となっています。また、文庫のパソコンによるデータベースでは、上記に加えて寄贈者、種類(単行本、資料、雑誌類などの別)があり、より詳細な検索が可能となっています。

また資料等に付している収録番号については、例えば1-2-1は、1(寄贈者:渡辺巖)-2(渡辺巖の2番目資料)-1(種類:単行本)を指します。このように所蔵番号の頭の数字は寄贈者等を指しますので、PDFで書かれているホームページからの検索では所蔵番号の頭の数字(寄贈者)が簡易検索の目安になると思います。無論のことですが、文庫や中央農研センター図書館に来られれば、キーワードの入力により迅速で的確な検索がデータベース(ウインドウズのエクセル版)を使うことにより行えます。

### 4. 公開場所、アクセス、利用方法など

(1) 公開場所:中央農業総合研究センター「谷和原畑圃場」

(〒300-2413 つくばみらい市田村1834-1)

(2) 交通:つくばエクスプレス 秋葉原始発区間快速ないし普通 「みらい平駅」下車、タクシーで3分

(3) 開館:月一金(10-15時)

休館:土、日曜日、国民の祝日、年末年始など

(4) 利用方法:原則として事前に情報広報課(029-838-8979)にお問い合わせ願うようになっています。

### おわりに

最後に「さつまいも文庫」設立に委員、応援団、協力者として寄与下さった方々を下記して、謝意を表する次第です。

(1) サツマイモ関係資料収集保存会委員:坂井健吉(代表、元農技研所長)、丸山清明(中央農研センター所長)、塩谷 格(三重大学名誉教授)、井上 浩(日本いも類研究会長)、津久井亜紀夫(元東京家政学院大学教授)、岩永 勝(作物研究所長)、樽本 勲(事務局、元甘しょ育種研究室長)

(2) 応援団:堀江 武(独法・農研機構理事長)、貝沼圭二(元JIRCAS所長)、畑中孝晴(元

農水省局長)、ペーリ・ドゥエル(東京国際大学教授)

(3) 協力者: ①表1の寄贈者並びに関係機関、②資料整理などに当たって: 中央農研センターの矢治幸夫、石黒 潔、関谷修三、又川速雄、小野崎淳子、井戸原洋子、佐藤美奈子、等の各氏にお世話になりました。

表1 サツマイモ文庫蔵書一覧

整理番号	元所蔵者/旧所属	寄贈者(関係)	蔵書番号	点数
1	渡辺泰/ 農水省	本人	1-1~8	20
2	(社)国際農林業協力・交流協会(JAICAF)	JAICAF(鈴木正昭)	2-1~8	13
3	西山市三/京都大学	西山国恵(配偶者)	3-1~3	55
4	小野田正利/ 農水省	小野田晃子(子女)	4-1~33	62
5	知識敬道/ 農水省	本人	5-1~17	17
6	鈴木繁男/ 農水省	鈴木 純(子息)	6-1~87	231
7	坂口進/ 農水省	本人	7-1~15	15
8	樽本勲/農水省→大阪府立大	本人	8-1~59	181
9	鹿児島サツマイモの館	館長・三宅康郎	9-1~11	11
10	坂本敏/ 農水省	坂本禎子(配偶者)	10-1~477	1,021
11	長谷川浩/農水省→京都大学	長谷川 忠(子息)	11-1~244	250
12	井上浩/川越サツマイモ館	本人	12-1~28	29
13	近畿中国四国農業研究センター	鳥越洋一	13-1~5	5
14	九州沖縄農業研究センター	高畑康治	14-1~5	74
15	九州沖縄農業研究センター	サツマイモ育種チーム 吉永 優	15-1~155	171
16	作物研究所	食用サツマイモサブチーム 熊谷 亨	16-1~412	2,896
17	津久井重紀夫	本人	17-1~11	50
18	石川博美/ 農水省	樽本 勲(元上司)	18-1~11	50
19	加藤眞次郎/ 農水省	樽本 勲(元上司)	19-1~27	28
20	(独)農畜産業振興機構	調査情報部 情報課	20-1~4	24
21	杉野守/近畿大学	本人	21-1~2	3
22	国際農林水産業研究センター	JIRCAS(高木洋子 研究戦略調査室)	22-1~15	15
23	中馬克巳/ 鹿児島県農試	中馬ミネ子(配偶者)	23-1~81	645
24	指宿市立図書館	同館	24-1~29	29
		計 (2010.4.30)	1747	6,540

## 国際焼き芋交流フォーラムの準備状況について

実行委員会代表幹事 山田 英次

本年11月末(26日~28日)に開催する国際焼き芋交流フォーラムにつきましては、先のニューズレターに簡易版のパンフを同封させていただくとともに、JRTWebに専用コーナーを開設するなどしてPRしてきたところですが、開催も間近になってきましたので直近の状況についてお知らせします。

## 1. フォーラムの概要

詳細なプログラムは同封の開催要綱を参照していただきたいと思いますが、今回のフォーラムは『世界の焼き芋の現状と未来』というテーマの下に国内外の関係者の参加を得て、我が国の伝統的な食べ物である『焼き芋』を食文化として世界に発信しようとするものです。

今回のフォーラムでは市民公開講座と研究交流フォーラム、交流パーティ、さらには複数品種の焼き芋即売、サツマイモ及び関連商品の展示・試食、川越市内のサツマイモ文化見学など、盛りだくさんのメニューを一体的に行うこととしています。

日時	2011年11月26日(土) 13:00～27日(日) 17:00	
場所	女子栄養大学坂戸キャンパス 埼玉県坂戸市千代田 3-9-21	
プログラム	①市民公開講座	: 11月26日(午後)
	②研究交流フォーラム(I、II)	: 11月27日
	③交流パーティ	: 11月26日(夕刻)
	④展示・試食	: 11月26日～27日
	⑤焼き芋即売等	: 11月26日～27日
	⑥サツマイモ文化見学会(川越市内)	: 11月28日

最近、農業の6次産業化ということが言われていますが、焼き芋はその典型的なパターンであり、サツマイモを焼き芋に加工することにより付加価値を高め、ひいてはサツマイモ全体の生産流通消費の振興を促進することが期待されます。

## 2. 市民公開講座

『サツマイモと健康』をテーマに、お二人の専門家による講演(要旨は以下のとおり)に加えて、実演『さつまいも健康体操』”芋美(カンビ)体操”を披露する予定です。

### 講演1 『健康のヒケツは腸内環境コントロールにあり!』

(理化学研究所イノベーション推進センター 辨野特別研究室 特別招聘研究員)  
辨野義己氏

あなたのウンチ、毎日ちゃんと出ていますか?臭くないですか?唐突な質問ですが、これが今後の健康や寿命を左右していると言っても過言ではありません。寿命さえ左右する臓器である「腸」を制することが快適なネクストライフのための「はじめの一歩」です。

### 講演2 『さつまいも成分に秘められた健康パワー』

(元東京家政学院短期大学教授 東京農業大学客員教授)

津久井亜紀夫氏

最近ではサツマイモをスイーツとして食べる方が多くなっていますが、サツマイモは昔から健康や長生きを補完するための健康食品として知られてきました。準完全食品と呼ぶ人もいます。あらためてサツマイモ成分に秘められた健康パワーについて科学的に語ります。

## 3. 研究交流フォーラム

世界の焼き芋文化と焼き芋事情について、台湾、インドネシア、米国の参加者から講演いただくとともに、我が国の国内産地を代表して茨城県行方(なめがた)地域及び鹿児島県種子島の取り組みと今後の展開、さらにはサツマイモビジネスで活躍しているお二人の方から「焼きいもビジネスの現状と展望」について講演ならびに意見交換を行います。

## 【研究交流フォーラムⅠ】

講演 「世界の焼き芋文化と焼き芋事情について」

台湾 瓜瓜園企業有限会社董事長（代表取締役会長） 邱 木城 氏

インドネシア PT. CHAHAYA TIMUR JAYA 代表 西俊一郎 氏

米国 Nijiya Market 社長 辻野三郎丸 氏

## 【研究交流フォーラムⅡ】

### ●国内産地の取り組みと今後の展開

〔茨城県行方（なめがた）地域〕

J Aなめがた営農経済センター麻生事業所長 金田富夫 氏

〔鹿児島県種子島〕

有限会社 西田農産代表取締役 西田春樹 氏

### ●焼きいもビジネスの現状と展望

有限会社なるとや代表取締役 西山隆央 氏

株式会社たるたる亭沖縄取締役会長 森園 弘 氏

## 4. 展示及び焼き芋即売

各地の優れたサツマイモのブランドや関連商品を展示するとともに、J Aなめがた（茨城県）による複数品種（※）の焼き芋即売を行います。

※「紅こがね」（ベニアズマ）、「紅まさり」（ベニマサリ）、「紅優甘」（べにはるか）、「べにこまち」等

サツマイモ（生いも）の他に、ジュース、ビール、ケーキ、まんじゅう、プリン、アイス、ようかん、菓子、生いも（各品種）、焼き芋器等を幅広く展示したいと考えています。出品・出展のご希望がありましたら、事務局まで連絡をお願いいたします。

## 5. 第3回実行委員会の開催予定

10月22日に第3回実行委員会を予定しています。メンバー以外の方でも数名分のスペースはありますので、興味のある方はオブザーバーとして参加可能です。希望される方は10月14日（金）までに事務局（yaki\_imo@jrt.gr.jp）あてに、メールにてご連絡ください。

日時	平成23年10月22日（土）11:00～17:00
場所	女子栄養大学（坂戸キャンパス）第5会議室（12号館3階） 埼玉県坂戸市千代田3-9-21（東武東上線 若葉駅下車 徒歩3分） <a href="http://www.eiyo.ac.jp/eiyo_campus/sakado.html">http://www.eiyo.ac.jp/eiyo_campus/sakado.html</a>
講演	『ユーザー視点のサツマイモ需要開発&海外のサツマイモ事情探索等』 山川 理 農業生産法人（株）VEGETA 穂顧問 （元 九州沖縄農業研究センター所長）
意見交換	・国際焼き芋交流フォーラムの開催準備について

## 編集後記【閑話】

先日、テレビにて群馬県桐生市や栃木県足利市の「ポテト入りやきそば」や蒸したジャガイモをソース味で炒めた「ポテト」（俗称：子供の洋食）が紹介されていました。他にも栃木県佐野市では「いもフライ」が有名ですが、群馬・栃木県に跨るこの地域に、なぜ、このようなジャガイモの食文化が栄えたのか？ご存知の方いらっしゃいませんか。